

## 1. Course Description

本授業は講義形式にて行われ、「スポーツ医学とは」の大きな枠組みから始まり、各項目についても総論的な話を中心に進めていきますが、アスレティックトレーナーとしての現場での活動や大会への帯同など具体的な話も適宜入れ、現場を意識できる内容となります。

この授業では主にディプロマポリシー1に関する知識の修得およびスポーツに携わる人間としての倫理観の涵養をめざします。

本科目は、実務経験のある教員による授業です。担当教員は整形外科において業務に携わっており、授業では、接骨院での実例や実体験、課題などを題材とした講義、実習を行います。

## 2. Course Objectives

スポーツ現場に携わる人間として、最低限知っておかなければならないスポーツ医科学の知識を習得します。

具体的には、以下の点を到達目標とします。

- ① スポーツ医学の概念および発展について正しい知識を有している。
- ② アンチドーピングを含めたアスリートに対する健康管理について正しい知識を有している。
- ③ スポーツ現場における救急処置について正しい知識を有している。
- ④ スポーツに伴う運動器疾患、内科的問題について正しい知識を有している。

また、授業時の質問に対してグループディスカッションやペアワークを行うことにより、プレゼンテーション能力を身につけます。

## 3. Grading Policy

① 授業内課題(30%)、② 期末の筆記試験(70%)

①、②の合計点で60点以上を合格とします。

中間アンケートの結果をもとに、全体に対するフィードバックを行います。

## 4. Textbook and Reference

Textbook

必要に応じてプリントを配布します。

(参考図書)

財団法人日本スポーツ協会・公認スポーツ指導者養成テキスト: 共通科目 I

財団法人日本スポーツ協会・公認スポーツ指導者養成テキスト: 共通科目 III

## 5. Requirements (Assignments)

内容が多岐にわたるため、予習・復習を行ってください。

予め、各回の授業前には1.5時間程、次回授業予定の配布資料を読み、キーワードの意味を調べてください。

授業後には復習として1.5時間程、授業内容について資料を見ずに、自分の言葉で説明できるようにしてください。

## 6. Note

## 7. Schedule

- [1] オリエンテーション, スポーツ医学とは
- [2] スポーツと健康
- [3] 救急処置
- [4] アスリートの健康管理
- [5] アスリートの内科的障害と対策
- [6] アスリートの外傷・障害と対策1(総論, 脊柱)
- [7] アスリートの外傷・障害と対策2(上肢)
- [8] アスリートの外傷・障害と対策3(下肢)
- [9] アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画
- [10] コンディショニングの手法1(ストレッチ, テーピング)
- [11] コンディショニングの手法2(アイシング, マッサージなど)
- [12] スポーツによる精神障害と対策
- [13] 特殊環境下での対応
- [14] アンチドーピング
- [15] 試験とまとめ  
※上記の内容を中心に構成しますが、時間(時限)の配分は適宜調整しながら進めます。